

## 平田愛奈 保育士

長崎国際大学

人間社会学部社会福祉学科卒

学生生活を振り返ると思い出がいっぱいで、とても充実した日々を過ごすことが出来ていたと感じます。勉強はもちろんですが、アルバイトをしたり、友人と遊んだり、たくさんの経験が出来ました。もし周りからの支えがなかったら、大学で興味ある分野について学ぶことも、自分がやりたい事に挑戦することも出来ませんでした。高校生までは自分の境遇について、どちらかといえば不幸だと感じるが多かったのですが、大学生活での経験や学びから視点が変わったこともあり、自分は恵まれていたことに気づき、今の暮らしに感謝しながら生活することが多くなりました。

高校生の頃と考え方が変わった理由の一つに、一人暮らしを経験したことがあります。それまでは一人になりたいという気持ちが強かったのですが、実際に一人になってみると寂しくて、時々泣くこともあり、しばらくは孤独に耐えられませんでした。また、家事の大変さにも気づくことが出来ました。帰って来たらご飯が準備されていたあの頃に戻りたいと思うことも多かったです。生活費のやりくりをしたことで、生きていくためにどれだけお金がかかっているのか学ぶことも出来ました。一人暮らしを経験出来たからこそ、今まで当たり前だと思っていた日々が幸せであったこと、これまで当たり前のように誰かが支えてくれていたことに気づくことが出来ました。

大学在学中は、卒業後の進路を見据えて、希望の職種に就くための準備をすることが出来たと思います。私が最も力を入れたことは資格取得に向けた勉強です。私は社会福祉のなかでも特に児童福祉領域に興味があったので、保育士の国家試験に挑戦しました。社会福祉学科では、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の養成を主な目的としていたため、保育士は独学で受験しました。入学前から取得したいと考えていた保育士国家試験に合格したことが自信になり、その後の社会福祉士国家試験も合格に向けて計画を立てながら勉強することが出来たと思います。

大学卒業後は、児童発達支援事業所で保育士として働いています。憧れだった保育士として、子ども達と関われることが嬉しいと思う反面、上手くいかないことばかりで「保育士に向いてないのかな」と心が折れそうになることもあります。先輩保育士の真似をしながら、子どもとの関わり方について日々勉強しているところです。いつかは社会福祉士として相談支援業務がやってみたいと思っています。そのために、今は現場での経験を通して、社会福祉士に必要なコミュニケーション能力や問題解決能力を身に付けていきたいと思えます。